

進路だより

発行：平成27年3月23日

1 合格体験記

これまでの卒業生から皆さんへ合格体験記を贈ります。進路活動について先輩方の行ってきた勉強法などを自分の進路実現の参考にしてください。

「勉強すればするほど成績は伸びる。自分を信じて努力を続けることが合格へのカギ」

中等1年生 神戸大学医学部医学科

①学習方法

地道な努力を続けることが大切だと思います。私は普段の学校での授業は真面目に受け、週末課題をはじめとする宿題は必ず提出日の前日までには終わらせるようにしていました。わからないことを先送りしないよう、その時期に学習したことはその時期に定着させていました。定期考査の勉強は3週間前からノートまとめ→問題演習(最低2周、間違えたところはプラス1周)をし、毎回どの科目も9割とることを目標にしていました。こうして4、5年のうちにわからないところやつまづきをなくしておくことが、受験勉強をスムーズに始めるためには大切だと思います。

②大学受験に対する心構え

大学受験は長期戦です。そのため、きちんと計画を立て実行していくのが大切だと思います。大まかな計画(いつまでに基礎固め、いつから過去問など)と細かい計画(今週何をするか、今日は何をするかなど)の両方を立てるといいと思います。計画通りできることのほうが少ないですから、一週間ごとに計画を見直すことも必要だと思います。私も実際は計画を立てたものの、なかなか計画通りに行かずどんどん先送りしてしまったり、詰めすぎて続かなくなったりしました。一週間のうち1日は調整日としておくのもいいでしょう。

はじめのうちは、受験生になって勉強しようと思気込むものの何をしたいかわからないと思います。そんな時は遠慮せず、先生や先輩に聞いてみるといいです。なにかアドバイスをくれるはずですよ。そのアドバイスを聞き入れるかどうかは自分次第ですが、まずは言われた通りにやってみて、ダメだと思えば他の方法を試してみて、早く自分にあった勉強法を見つけるのが大切だと思います。受験勉強中はどうしても他人のことが気になりますが、自分のペースで自分のやるべきことを一生懸命頑張ってください。

③その他伝えたいこと

学校での授業、考査を大事にしてください。センター試験は教科書の内容からしか出題されませんし、学校の授業も教科書を基本に行われています。定期考査はその教科書の内容が本当に理解できているかの確認になるほか、計画を立て、それに従って勉強を実行する練習にもなります。

模試はいろいろ受けてみるといいと思います。大学などの公開会場での受験でセンター試験や大学受験に似た雰囲気を感じることができるし、全国の受験生の中での自分の位置がわかるのでこれからの勉強の指針にもなります。

私はみなさんが部活動をしているのと同じように5年生まで週4日、1日3時間ほどクラシックバレエを習っていました。6年生になったときに習い事に充てていた時間をすべて勉強にスイッチしました。部活動に真剣に取り組んでいる人は、そういった切り替えがパッとできれば大丈夫だと思います。

目標は高く持って、頑張ってください。勉強すればするほど成績は伸びます。自分を信じて努力を続けることが合格へのカギだと思います。

④参考になった参考書・問題集

英語：NextStage(桐原書店)

数学：4step(数研出版)、クリアー(数研出版)(結構難しかったです)

国語：きめる！センター古文・漢文(学研教育出版)

化学：セミナー化学(第一学習社)、化学重要問題集(数研出版)

生物：リードα生物基礎・生物(数研出版)、生物重要問題集(数研出版)

①学習方法

最初に、ここに書いてある学習法はあくまで一つの提案であることを心に留めてお読みください。今、ご自身の勉強法に限界を感じている方は、試してみるといいかもしれません。

私は他人に与えられた課題に長時間取り組むことが非常に苦手なので、他の受験生と同じかそれ以上の勉強時間を確保することが苦痛でした。塾等にはほとんど行かなかったため、独自の学習法を編み出し、周りより短時間で効率よく学習することに専念しました。塾や予備校についてですが、それらに通ってしまうとそれだけまとまった時間拘束されてしまうのが非効率に思えたので、私は情報収集と自習室利用の為に本番直前の数ヶ月だけ通うことにしました。情報源となる先輩や知り合い、そして勉強するための場所が確保できるなら、最後の数ヶ月も塾に行く必要もなかったように思います。この学校は素晴らしい学習環境です！！

具体的な学習のポイントですが、大きく分けて3つあります。

一つ目に、無駄を省く作戦です。まず、過去問を研究し（この際、必ずしも「解く」必要はありません！理由は後述。）、必ず出る分野、出そうな分野、出なさそうな分野、必ず出ない分野の4段階ほどに分類します。あとは適当な問題集の各問題にラベリングし、出ない分野、出なさそうな分野は思いきって飛ばして解いていきます。過去問自体は言わば「今年出題される確率が最も低い問題」であるため、多くの年度を繰り返し解くほどの価値は無いと思います。私は力試しの為に2年分だけ解きました。

二つ目も無駄を省く作戦ですが、これはかなりの集中力と少しの勇気を必要とします。問題集を何度も繰り返し解くのではなく、一回だけにしてしまおうというものです。私の身の周りには、「この問題集を〇〇周終わらせた」というライバルがたくさんいましたが、不真面目な私には何回も解き直すほどの気力は到底ありません。同じ問題ばかり解いていても飽きてしまうし、何より同じことを延々学び続けるのは非効率に思われたので、思い切って問題集は一周だけにするにしました。何周もする前提で取り組むと、わからなかったところは「次のときにわかるようにしよう」と飛ばしてしまいがちですが、「一回で終わらせる」と心に決めていると、どの問題も軽視できません。全ての問題に全力で取り組むようになります。これが、本番でわからない問題に遭遇したときの訓練にもなります。私のような怠け心の強い人には、このように思い切って逃げ道を断つというのも有効な手段かも知れません。

三つ目は、皆さんが何度も耳にしてきたフレーズ、「基本が一番大事」です。どんな難問も、分解していけば基本的な問題を組み合わせただけのものです。私は物理が大の苦手で、直前の模試まで偏差値が40ほどでした。このままでは絶対に受からない、と思い、参考書を丸々写経しました。図もできる限り写し、問題でわからないところは1分と粘らずに模範解答を丸写ししました。すると、それまで手のつけようのないほど大きな塊のように思っていた難問が、小さく簡単な基本問題の組み合わせに見えてきました。難関大を志望するほど、どうしても背伸びをしてしまいがちですが、行き詰まりを感じたら基本に立ち返りましょう。基本の習得は早ければ早いほど効果が高いです！

以上、私流学習法のすすめでした。しかし、最も肝心のポイントが最後にひとつ、残っています。それは「自分で自分の学習法を追及し続ける」ことです。受験シーズンを間近に控えると、学校の先生や塾の講師、先輩やライバルの同級生、両親や知り合いなど、身の周りのたくさんの人からアドバイスを受けるでしょう。その一つ一つが貴重な情報ですし、活かせるところには存分に活用していただきたいのですが、まずはその全てを（今お読みのこの文章でさえも）疑ってかかってください。受験に完璧な一般論なんてありません。与えられたアドバイスや情報を活用するのと、鵜呑みにするのは大きく違います。自分に合ったスタイルを貪欲に追求し続けること、周りに惑わされず自分を信じて貫き通すことが、なにより大切なことです。このような経験は受験のみならず他の場面でも大きく役立つと思います。

②大学受験に対する心構え

大学入学は、社会に出る為の言わばスタートラインです。或いは、まだスタートラインではないかもしれません。大会本番直前にスタートラインに向かって全力疾走するマラソンランナーがいないように、私たちは大学受験程度で燃え尽きてはならない。受験勉強とは、大学或いは社会において絶えず走り続ける為の、体力作りでありトレーニングです。1年後の入学式というささやかな喜びのためではなく、これから広大な社会に打って出る為の勉強なのです。受験期になると模試の判定やその手応え、志望校選びやその決定など、目先のことに意識がとられてしまいがちです。もっと広い視野をもち、自分の将来像を描き、未来の自分への投資というつもりで、今自分にできることに取り組む。そんな機会はそれほど多くないのだから、この貴重な時間を存分に楽しみ尽くすようなつもりで臨んで欲しいと思います。結果はおまけ。

後から勝手についてきます。そして模試の判定は気にしないこと！本当にあてになりません。私は最後の最後までずっとDかEでした。

③その他伝えたいこと

まず、素晴らしい環境を提供し、常に刺激し続けてくれたこの学校に感謝です。授業にちゃんと取り組み、わからないことがあれば先生に聞く。本来ならばそれだけで大学に進学できる。こんな当たり前のことが成立しないのがどうやら日本社会の現状のようですが、本校はその限りではありません。求める者には与えられる、或いは与えるための最大限の努力が行われる、ここはそんな学校です。努力する者には、相応の充実したサポートが与えられます。後輩の皆さん、受身でいてはいけません！常に前のめりに、攻めの姿勢で通ってください！

④参考になった参考書・問題集

英語：後悔ポイントその1。もっと早くに始めておけば良かったです。 『ドラゴンイングリッシュ』(講談社)…語源が載っているので、掲載語のみならず他の語も読めるようになります。 『ユメタン3』(アルク)…京大の難しい単語に対応する為に。ドラゴンイングリッシュと被っている語もたくさんあるので、要らなかったかも知れません。 『ポレポレ 英文読解プロセス50』(代々木ゼミナール)…英文をシステムティックに読めるようになります。英文和訳が出題される大学を目指すなら特におすすめ。ただしある程度の単語力が必要なので、予め備えてから取り組みましょう。
数学：後悔ポイントその1。手本になるほど伸びませんでした。
国語：とにかくたくさん素材文に触れる方がいいので、どれか一つに絞ってしまうのはよくないかと。
物理：勝因ポイントその1。一番の苦手な、気づいたら一番の武器になっていました。 『物理のエッセンス』(河合出版)…素敵な参考書です。ノートに全部写経してしまいました。二冊ありますが、それぞれ一ヶ月位が目安でしょうか。 『名問の森物理』(河合出版)…エッセンスの問題集。中間的な難易度に『良問の風』という問題集もあるそうですが、時間短縮のために飛ばしました。難しめですが、エッセンスを片手に解けば大丈夫です。重要問題としてマークされている問題のみを解きました。また、今年は波動と熱力学は出ないだろうと予想し、それらの分野は全て飛ばしました。 『チャート式 30日完成！センター試験対策 物理』(数研出版)…30日完成という魅力的な名前に惹かれて買ってしまい、センター本番直前に1.5倍速の2日間で取り組みました。本番にもほぼ同じ問題が出ており、かなり点数を伸ばせました。
化学：後悔ポイントその3。序盤は得意だった為に、後半期に疎かにしてしまいました。 『化学の新研究』(三省堂)…知りたいことはたいてい載っています。辞書として使いました。 『化学の新演習』(三省堂)…新研究の問題集です。難しく、時間がかかるので、志望校に頻出の問題に絞って取り組みました。 『有機化学演習』(駿台文庫)…京大は有機化学が頻出なので、その補強に使いました。前半部分に受験に必要な有機分野の知識がきれいにまとめてあるので、本番前のチェック用にも最適でした。これも、志望校の頻出分野に絞って取り組みました。
地理：勝因ポイントその2。センターだけでしたが配点が高く、余裕を持って二次に臨めました。参考にしたのは授業のプリント！T.S先生には感謝が尽きません。

「大学受験は今までの学校生活の成果がそのまま現れる」

中等1回生 京都大学医学部人間健康科学科検査技術科学専攻

①学習方法

受験当日までの目標を立て、そこから次の模試までこの一ヶ月、一日、一時間の目標を順に立てていくことで見通しを持って学習を進めた。その上で模試などの結果をふり返り、学習方法や目標の見直しを行った。そうすることで集中力が保て、効率よく学習できた。

②大学受験に対する心がまえ

大学受験は今までの学校生活の成果がそのまま現れる。部活動や趣味など、何か一つのことをやり遂げた経験などはそのまま受験に活かされる。

③その他伝えたいこと

受験をストレスと感じないよう、友達と競い合ったり、自分のレベルにあった学習をしたりして、問題を解けたときの達成感を味わいつつ頑張るとよい。

④参考になった参考書・問題集

数学：理系数学の良問プラチカ(河合出版)、京大の理系数学 25 カ年(教学社)
化学：京大の化学 25 カ年(教学社)
生物：生物基礎問題精講(旺文社)、生物標準問題精講義(旺文社)
地理：センター試験地理 B の点数が面白いほどとれる本(中経出版)

「同じ受験方法で合格した人のアドバイスを参考にしよう」

中等 1 回生 早稲田大学国際教養学部

①後輩へ伝えたいこと

私は7月の三者面談の後に早稲田大学国際教養学部をAO入試で受験することに決めました。そこから、同じ受験方法で合格した知人からのアドバイスを参考に、予想問題集や過去問題集を解いたり、TOEFLの単語帳を覚えたりするなどの対策を受験前日まで続けました。

英語が得意だからといって何も努力せずに合格することはあり得ません。国内選考は日本全国から英語が得意という人が何百人と集まってくる受験方法なので、自分の英語の実力を過信しすぎないことが大切だと思います。ただ、当日に弱気になっていたり自信がなさすぎたりすると、当日の受験者数の多さや、ほかの受験生の雰囲気にかけてしまうので当日までにできる限りのことをして、当日は自信をもって臨めばいいと思います。

②よく使った参考書、問題集

過去問・予想問題集（前日までやり続ける）
（決められた時間の中で問題を解く練習をする。）
TOEFLの単語帳（各分野の専門用語にも慣れている方が強い。）

「絶対にこの大学に行きたいという思い」

中等 1 回生 慶應義塾大学法学部政治学科

①後期課程の学校生活で心がけていたもの

私が後期課程の3年間、心がけてきたことは2つあります。1つ目は「何事にも積極的に手を抜かずに取り組むこと」です。生徒会や各種コンテストに参加し成果を得ることができました。また、どの授業にも力を入れて取り組みました。

2つ目は「絶対にこの大学に行きたい」という思いです。私は志望校の説明会や模擬講義を受けに行き、ホームページやパンフレットだけでは知り得ない情報を得て、大学で学びたいことを見つけ、勉強へのモチベーションを高めました。私が受けたFIT入試ではこの2つの心がけを通して得たものが、少なからず評価につながったのではないかと考えています。

②学習方法

FIT入試の受験科目は資料の読み取りや与えられたテーマについての小論文と個人面接でした。この試験で最も重要なことは、情報量とその情報に対する自分の考えをもつことです。私はマスメディアについて大学で学びたいと思っていたので、時間を見つけてはテレビのニュースや海外の新聞から情報を得て、同じ出来事に関する国ごとの報道の仕方を比較したり、意見をノートに書いたりしてきました。このノートは試験当日に試験場に持って行きました。小論文や面接の対策はすべて学校の先生にお世話になりました。小論文は過去問を何度も書き直し、その度に先生と話し合いアドバイスをいただき、よりの確で一貫性、独創性のある、興味をもってもらえる文章を書くことを目指しました。

③よく使った参考書、問題集

FIT入試の過去問（慶應義塾大学のホームページから）
赤本（教学社）
各種報道機関の記事
蛍雪時代特別編集全国大学小論文入試（旺文社）